

# 第50回愛知県野生生物保護実績発表大会 ～輝く未来のいきものサポーター～ を開催しました

本県では、学校や団体が行う野生生物の保護活動実績等に係る取組発表を通して、県民の方々に野生生物に対する保護思想の普及・啓発と環境保全意識の高揚を図ることを目的に、昭和46年度から本大会を開催しています。令和2年度は、以下のとおり開催しました。

## 1 開催概要

(1) 日 時

令和2年9月22日(火) 午前10時から午後3時20分まで

(2) 場 所

刈谷市産業振興センター 7階 小ホール (刈谷市相生町1-1-6)

(3) 発表団体

11団体(小学校4校、中学校2校、高等学校5校)

(4) 参加者数

234名

(5) 発表プログラム

別紙のとおり

## 2 入賞団体一覧

賞	入賞団体名
愛知県知事賞	愛知県立佐屋高等学校 生物生産科作物専攻・科学部
〃	豊田市立滝脇小学校
〃	岡崎市立美合小学校
愛知県教育委員会賞	岡崎市立生平小学校
〃	岡崎市立河合中学校 自然科学部
愛知県自然観察指導員連絡協議会賞	愛知県立一宮商業高等学校 地域貢献部
〃	愛知県立木曾川高等学校 総合実務部
〃	桜丘高等学校 生物部
公益社団法人愛知県獣医師会賞	豊田市立五ヶ丘東小学校
〃	岡崎市立東海中学校 自然科学部
〃	愛知県立三谷水産高等学校 海洋資源科栽培漁業コース

【午前の部】



時間	発表団体名	発表テーマ
9:45	開場(受付開始)	
10:00	～開会式～	
10:10	発表開始	
各発表時間 10分間 審査委員と の質疑応答 5分間 (各団体 計15分間 )	1. 豊田市立五ヶ丘東小学校 <small>いつがおかひがし</small>	自然と人が共生するふるさと“五東の里”をつくろう
	2. 岡崎市立生平小学校 <small>おいだいら</small>	守ろう!野鳥のすむ町『生平』
	会場入れ替え(20分間)	
	3. 岡崎市立美合小学校 <small>みあい</small>	生田蛭は「美合の宝」 ～発信しよう「ふるさと美合」を守るため～
	4. 豊田市立滝脇小学校 <small>たきわき</small>	私たちの愛鳥活動 知ろう!滝脇の自然 守ろう!私たちの森 広げよう!地域へ
11:30頃	閉会	

【午後の部】

12:45	開場(受付開始)	
13:00	発表開始	
各団体の 発表時間 10分間 審査委員と の質疑応答 5分間 (各団体 計15分間 )	5. 岡崎市立河合中学校 <small>かわい</small>	河合の宝 ゲンジボタル —伝統の継続 そして一歩前進—
	6. 岡崎市立東海中学校 <small>とうかい</small>	未来へつなぐ <small>たすき</small> 襷 ～東海の自然を次代につなぐ～
	会場入れ替え(20分間)	
	7. 桜丘高等学校 <small>さくらがおか</small>	タガメの生態と繁殖の研究
	8. 愛知県立三谷水産高等学校 <small>みや</small>	ウナギの保護と生物多様性の保全
	9. 愛知県立木曾川高等学校 <small>きそがわ</small>	未来に伝える 守ろう 国の天然記念物イタセンパラ
	10. 愛知県立佐屋高等学校 <small>さや</small>	生きものの楽園を目指した水田づくり
	11. 愛知県立一宮商業高等学校 <small>いちのみや</small>	守ろうイタセンパラ、繋げよう地域の活動!
15:10	～閉会式～	
15:20頃	閉会	

### 3 開催状況

【小学校の発表】	
1 豊田市立五ヶ丘東小学校 <small>いつがおかひがし</small>	自然と人が共生するふるさと“ <small>ことろ</small> 五東の里”をつくろう
<p>校内の池、樹木や草地、隣接する森（里山）すべてをビオトープと捉え、命のつながりを意識した多様な動植物が生息できる環境づくりは学びと遊びを連動させた活動。校内ビオトープの手入れや、生きものの生息状況を調べて数値として結果を出した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
2 岡崎市立生乎小学校 <small>おいだいら</small>	守ろう！野鳥のすむ町『生乎』
<p>ふるさと学習テーマ発表会をリモートで、各学年のマスコットボードに因んだ取組を校内発信し、地域の方へも愛鳥新聞による回覧で共有。縦割り探鳥会は、岡崎野鳥の会の協力で学びながら体験。また、地域参加の募集も行いながら、今後は定期的に活動を行う予定。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
3 岡崎市立美合小学校 <small>みあい</small>	<small>しょうだ</small> 生田蛭は「美合の宝」 ～発信しよう「ふるさと美合」を守るため～
<p>校内でのホタル幼虫の育成活動を中心に、マイホタル活動、山綱川の河川環境調査と清掃、3年に一度の他校との意見交換として、ホタルサミットを行っている。また、ホタル専用のビオトープの再生を試み、成虫の飛翔を目指して生田蛭の保全活動につなげている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

4	たきわき 豊田市立滝脇小学校	私たちの愛鳥活動 知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ
<p>滝脇の森にすむ野鳥とより親しむために、愛鳥検定（姿見・鳴き声）や、日々、児童が見かけた野鳥の観察記録を行っている。また、毎年実施している校区ツバメ営巣調査では、営巣時期や場所、気温を比較し、巣立ち成功率とヘビの食害などのアクシデントの関係を考察。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

【中学校の発表】		
5	かわい 岡崎市立河合中学校 自然科学部	河合の宝 ゲンジボタル ー伝統の継続 そして一歩前進ー
<p>ゲンジボタルの飼育と幼虫放流を長年継承。今年度の新たな取り組みは、ゲンジボタルの幼虫に、カワニナ以外にもサカマキガイ、ミミズなどをエサとして与え、生存率や生育の様子を観察。また、広報誌「GENJI 君」を年数回発行し、観察や研究の紹介を行っている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
6	どうかい 岡崎市立東海中学校 自然科学部	未来へつなく <sup>だすき</sup> 襷 ～東海の生き物を次代につなぐ～
<p>絶滅危惧種であるカワバタモロコの保護・繁殖活動や、北山湿地の保全活動などを行っている。カワバタモロコのすみかである「モロコ池」では、増えすぎた草の抜き取りや、外来種の移動などを行い生態系を整えている。北山湿地では、様々な地域の方と交流し活動に取り組む。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

【高等学校の発表】

7	さくらがおか 桜丘高等学校 生物部	タガメの生態と繁殖の研究
地元のタガメ（絶滅危惧種）の繁殖を行い、その過程の生態を観察、研究。タガメを通して私たちが住む郷土の自然環境の保全を考えることができるよう、今後もタガメの生態と研究を継続させていく。		
		
8	愛知県立三谷水産高等学校 海洋資源科栽培漁業コース	ウナギの保護と生物多様性の保全
近年、シラスウナギの漁獲量が激減しており、養殖技術の確立とシラスウナギの持続的な利用が求められる。三河一色特産であるウナギの保護活動として、石倉カゴの取組などを実施。そのモニタリング調査と成果を考察し、将来の生物多様性の展望へとつなげたい。		
		
9	愛知県立木曾川高等学校 総合実務部	未来に伝える 守ろう 国の天然記念物イタセンパラ
木曾川に生息している国の天然記念物、イタセンパラの保護につながる活動として、イタセンパラ学習会等への参加や、生育地の除草等による保全、広報活動を実施。広報活動では、イタセンパラ認知度アンケート調査やイタセンパラかるたで子どもたちへの認知度を上げている。		
		

10	愛知県立佐屋高等学校 生物生産科作物専攻・科学部	生きものの楽園を目指した水田づくり
<p>除草剤を利用しない米作りとしてチェーン除草を活用。このチェーン除草により水田や用水路のドジョウの生息数が増加し、ナゴヤダルマガエルの生息地であることも判明。また、冬水田んぼにも挑戦し、水鳥の営巣地となる環境にしたところ、水田生物の保護へもつながった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
11	愛知県立一宮商業高等学校 地域貢献部	守ろうイタセンパラ、繋げよう地域の活動！
<p>イタセンパラ（国の天然記念物）の保全活動として、生息地の除草とゴミ拾い等、広報活動として認知度に関するアンケートや一宮駅周辺でイタセンパラティッシュの配付を行った。また、用水路の外来生物駆除活動や魚類の調査を行い、イタセンパラと外来生物との関係を考察。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

#### 4 審査委員長講評

今回の大会は、コロナウイルス対策を取りながらの開催となる中、昨年から3校増の11校から参加がありました。

小学校4校は、いずれも、全校を挙げての取組を長年にわたって取り組んでいる学校でした。伝統の上にさらなる工夫を重ね、新たな伝統を作っていこうという姿勢が強く感じられました。

中学校2校は、ともに長い伝統のある取組でありましたが、専門誌や専門家から新たな知識を取り入れ、科学的な態度で活動に取り組んでいる姿勢が印象的でした。

高校5校は、今回初めて参加する学校も2校あり、フレッシュな顔ぶれとなりました。高校生らしく、実験的・実証的な積み重ねで自ら課題を探っていく姿勢が頼もしく感じられました。

全体を通じて、地域の人々や専門家とのつながりや地域の自然環境への働きかけが重視されるようになっており、今、求められる「生物多様性の主流化」や「生態系の回復」にも通じるハイレベルな取組となっていると感じました。

審査では、「計画的・系統的・定期的な活動か」「生物保護に実質的な効果があったか」、「組

織全体で理解されているか」、「地域の方々と連携しているか」、「発表の仕方に工夫があったか」などの視点で審査させていただきました。

いずれの取組も上記のとおり素晴らしい内容であり、第51回大会に向け、各校がさらなる活動を展開されることを期待しています。

## 5 おわりに

本県では、令和3年度も本大会の開催を予定しています。野生生物の保護活動・生物多様性保全活動などを行う学校・団体の皆様の御参加をお待ちしています。